沖縄タイムス　2012年5月27日（日）

共生へサンゴが懸け橋

第6回太平洋・島サミットに参加している各国首脳の夫人は26日、恩納村立恩納小中学校を訪れ、児童・生徒と交流した。生徒代表がサンゴの保全活動などの取り組みを紹介。夫人らはサンゴの移植に使うプレートにメッセージを書き、子どもたちと質疑応答、沖縄科学技術大学院大学（OIST）も視察した。高校生の太平洋・島サミットも同日宮古島市で最終日を迎え、「島と島を結ぶ友情の懸け橋に」と各国の高校生らが友情宣言で幕を閉じた。

（1面参照）

養殖・保全で交流

首脳夫人 恩納小中を訪問

小中学生との交流会に招待された各国首脳夫人ら（右端は野田仁実夫人）＝26日、恩納小・中学校体育館

【恩納】交流会は野田仁実首相夫人ほか、ソロモンやトンガなど7カ国の夫人が参加した。約350人の児童・生徒が各国の小旗を振って出迎え、同校生徒会長の具志堅百絵さん(中3)が歓迎の言葉を述べた。

サンゴの現状や保全について、津波古未歩さん（中3）、大城月乃さん（同）、当山りせさん（2年）がスクリーンを使って説明。「養殖や植え付けによってサンゴの回復を促し、美しい海を取り戻したい」などと発表した。

交流会後、仁実夫人は「皆さんとともに美しい海を守っていきたい。太平洋の島々との交流の懸け橋になるよう期待しています」とあいさつ。

クック諸島のアカイティ・プナ首相夫人は、歓迎に感謝し「国の将来を担う子どもたちは国の宝。いつも、最善の努力をすることを忘れないで」とエール。

メッセージを書いたサンゴプレートを恩納村漁業協同組合の原田理江さんに託した。

OISTでは、ジョナサン・ドーファン学長が大学の設立目的や研究内容を、環境科学専門の佐藤矩行教授が、太平洋諸島にも群生するサンゴの遺伝子研究について説明した。

夫人らは、再生可能エネルギー普及促進に向けた国際ワークショップの会場も訪れ、政策、技術面の課題克服の議論に耳を傾けた。